

■ 平成 28 年度 中央区地域活動ふれあいの集い講演会

「地域の底力、再発見」～ご近所力で難問解決～

日時：平成 29 年 1 月 25 日（水）15：00～

会場：新潟ユニゾンプラザ 多目的ホール

（司 会）

ただいまより、講演会に入らせていただきます。本日は、株式会社NHKプラネット中部支社の制作事業部長でいらっしゃいます黒川敬様にご講演していただきます。

黒川様は平成 3 年にNHKに入局され、これまでに「クローズアップ現代」や「あさいチ」など数々の番組制作に携わってこられました。平成 15 年からは、悩み相談にくる自治会、町内会と一緒に悩みの解決を目指す人気番組「難問解決！ご近所の底力」の制作をご担当され、全国各地の取材をされました。放送が終了した現在でも、取材活動から得たご経験について、難問に悩む各地域からの要請を受けて数多くのご講演をされております。

本日は、「地域の底力、再発見！～ご近所力で難問解決～」と題しましてご講演をいただきます。それでは、黒川様、よろしくお願いいたします。

（黒 川）

こんにちは。はじめまして。よろしくお願いいたします。

今、ご紹介がありましたとおり、「難問解決！ご近所の底力」という番組を 7 年間担当していました。皆さん、ご覧になっていましたか。

本当かどうか確かめてみますね。何曜日、何時の放送だったか聞きます。そこだと思つところで手を挙げてください。木曜日の夜 9 時だった。いない。月曜日の夜 10 時だった。少しいらっしゃいました。日曜日の朝 10 時だった。いない。金曜日の夜 8 時だった。少しいた。実は、あまり見ていなかった。今のところ一番多いですね。時々見ていたけれど、もう記憶が衰えてよく覚えていない。そうか。今日は、記憶が衰えた人の集まりなのですね。だいたいお年を召した方も多い感じなので、そうかなと思ったのですが、実は、全部正解です。7 年間で放送時間が 4 回変わったので、どれに手を挙げていただいても、さすが新潟市中央区の皆さん素晴らしい、とお褒めする準備万端だったのですが、残念ながら、皆さん、記憶が衰えているか見ていなかったという、非常に悲しい結果になりました。

どんな番組だったか、少し思い出してもらつたためにご紹介しておきます。番組の主演は、「お困りご近所さん」といいまして二、三十人がひな壇に座っています。皆さんは、地域のお困りごと、町内とか地域からいらつしたのですが二、三十人来てもらいます。うちの

町は空き巣が多くて困っている。ごみ出しマナーが悪くて困っている。イノシシが作物を食べる困っていると、いろいろなお困りごとがありました。

もう一つ大事なのが、番組には「妙案者」という人がいまして、この人たちはかつてうちもこのように困っていたのですがこのように解決しましたという、アイデアをお困りご近所に披露してもらいます。お困りご近所は、それいいね、うちの町でもやりたいということになったら、この人たちがどんどん解決に向けて動いていくと。それを、ドキュメンタリーとして放送する番組でした。

最初、司会は堀尾アナウンサーだったのです。途中から松本和也という、私の同期で「英語でしゃべらナイト」とか「のど自慢」をやっていた彼と和田アキ子さんがくるという番組でした。

どうですか。記憶、少し戻ってきましたか。だいぶ重症の方の集まりのようですね。分かりました。これで大体テストは終わりましたので、今日は、少し記憶が衰えてだいぶ困っている皆さんの集まりだと。

ということで、この番組は終わって7年くらいたつのですが、200 くらいの町が出てくれました。私はいろいろなことを教わりましたので、今日は、それを皆さんにお裾分けして、日ごろから地域の活動のために頑張っている皆さんに少し役立ててもらおうと思ってまいりました。ただ、一つ心配していることがあります。それは、皆さん、記憶が弱っている皆さんの集まりなので、何が起きるかという、話の途中で寝るのです。それを防ぐために、今日は少し工夫をしたいと思います。クイズをやります。クイズということは、皆さん、当たるということです。どうせ私は当たらないと思っていらっしゃるかもしれませんが、今日、参加者の名簿を、無理を言っていただいております。ふりがな付きで入っております。だから、寝てしまっていると、恥をかくかもしれません。困る人は、今のうちに出て行ってください。だれも出ていかない。では、皆さん、ご了承いただいたということで、今日はそのように進めさせてもらいます。

よろしいですか。最初は地震。熊本でも去年あって、毎年どこかでいろいろあって、いろいろ困っていますが、地震に関する話です。東京では、地震にどの町が危ないかということ、町内ごとにランキングしています。その中で、一番危険だとなった町があります。東京都足立区千住仲町という町でした。まずは、その町のお困りごとの様子をご覧いただきたいと思います。番組を見ていなかった人は、そう、こんな番組だったなということ思い出しながらご覧ください。では、お願いします。

(V T R)

(黒 川)

先生が、地震の被害を減らす方法はあると、その参考になるデータがあると言いました。阪神・淡路大震災のときのデータなのですが、あのときの地震というのは、東日本大震災と違って直下型の地震だったので、家の梁や家具の下敷きになって多くの方が亡くなった地震でした。でも、救出された人もたくさんいました。では、あなたは一体だれに救出されましたかというのが、そのときのデータです。ここに地震の被害を減らすヒントがあると先生は言っています。

では、皆さんに聞きます。ここが一番多かったと思うところで手を挙げてください。地震のときに、あなたはだれに救助されましたかという質問です。だれに救助された人が一番多かったかというところで手を挙げてください。

いきます。ア、消防や救急隊の人に助けてもらったという人が一番多かったと思う人。少しいらっしゃいました。イ、家族ではないかという人。少しいらっしゃいました。ご近所の人ではないかという人。今日の会の趣旨を皆さんは理解されていますね。

では、VTRの続きをお願いします。

(VTR)

(黒 川)

というわけで、皆さん大正解、ご近所の人でした。実は、私、このことを実感したことがありまして、ちょうど阪神・淡路大震災のときに大阪放送局に勤務していたので、何度も現場に足を運びました。あの地震は7,000人の人が亡くなったのです。ところが、震源地のすぐそばであったにもかかわらず、ほとんど人が亡くならなかった町があったのです。それは、淡路島の北淡町という町でした。なぜ亡くなった人が少なかったのか。それは、だれがどこに寝ていたか、皆が知っていたのです。ご近所が、お互いのことをよく知っていたのです。先ほど言ったように、多くの家具や家の梁の下敷きになった。命を救うのは、72時間以内に救出すること。下敷きになっていると、血がうっ血して止まって死んでしまうのです。クラッシュシンドロームという症状でたくさんの方が亡くなったのですが、北淡町はそれがなかった。救出が早かった。だれがどこに寝ているか皆が知っていたから、山田の婆ちゃんは2階の仏壇の間で寝ているはずだという、その辺に行くのです。そうすると、やはり婆ちゃんがいるのです。そして引き出すというように、救出がどんどん進んだのです。やはりそういうご近所の力はすごく大切だということを実感しました。

先ほどのお困りご近所の千住仲町に北淡町を紹介しようと思ったのですが、地方の田舎の町だったからできたのではないと言われてそうだったので、都会でそういう町がないか探しました。そうしたら、あったのです。その町の様子を少しご覧いただこうと思います。それでは、先ほどのVTRの続きをお願いします。

(VTR)

(黒川)

いろいろな武器も編み出して避難訓練をやったこの町なのですが、会長に聞きました。こういう名簿がありましたけれども、あのようなものはすぐにできたのですかと聞いたら、最初はだれも教えてくれなかったそうです。自分がどこに寝ているか、どんな病気があるか、そのようなことは言いたくないですね。だけど会長の立場からすると、なぜ助けてやっているのに教えてくれないのだという気持ちについなりそうだったのですが、会長が言ったのは、それは、むしろ信頼がないからだめだったのだと。会長がやったのは、何度も何度も避難訓練をやったそうです。そうすると、そのうちにあのリヤカーに乗せて助けてもらえるのだ、おんぶ紐に乗って助けてもらえるのだと分かるようになって、少しずつ名簿に協力してくれる人も増えていったとおっしゃっていました。やはり、信頼関係がないとなかなかそういうことは難しい。教えてやっている、助けてやっているみたいな気持ちを持ってはいけないと、会長はおっしゃっていました。

そういうことで、この町はおんぶ紐とかリヤカーとかがあったのですが、このVTRをほかの町で紹介したときに、がっかりしたという意見を言われたのです。なぜなのですかと聞いたら、うちは坂が多いから、あのリヤカーは使えないのだと言われたのです。でも、それを聞いて私もがっかりしたのですが、何もこのリヤカーを作ったらどうですか、おんぶ紐を使ったらどうですかということを言うために皆さんにVTRをお見せしたのではなくて、この考え方をぜひ知ってほしかったのです。

自分たちの町で避難訓練をやろうというと、大抵、どのようにやったらいいか、行政の人、メニューをくださいとかというのが普通の町なのです。しかし、この人たちはそうしないで、自分の町だったら何が必要かということ自分たちで考えたのです。そうすると、道が狭い、救急車は入れない。では、リヤカーがあつたらいいのではないか、おんぶ紐があつたらいいのではないか。そのことをやってくれる人が地域にいるかどうかということを探していくと、地域でやってくれる。行政は補助金を出してくれますかということを出してくれるというように、自分たちの町だったらどのようなものが必要かということ自分で考えてやっていく。この

発想です。ぜひ、皆さんにも参考にしてほしいと思ってこのVTRを見てもらったので、新潟市中央区の皆さんだったら、うちの町でもし避難訓練をしたらどんなものが必要だろうかとまず自分たちで考えて、だれかにメニューを教わるのではなく、まず自分で考える。ここがスタートかなと思います。

次の町は、千葉県の米本団地というところです。この町は、高度成長期に皆さんが働くための住宅がたくさんできたので、一気に皆が入居して、一気に皆が年をとった、そういう町の話です。いま何が起きているかという、孤独死です。だれにも看取られず、お年寄りの方が亡くなってしまうということが次々と起きました。まずその町の様子をVTRをご覧ください。お願いします。

#### (VTR)

(黒川)

というわけで、せっかく子どもたちが絵手紙を書いたのに、残念ながら郵便法の壁に阻まれて、その絵手紙は配ることができないということになりました。しかし、この後、絵手紙はきちんとお年寄りの元に届きます。

ここで皆さんに質問です。郵便局員は郵便法で配れなかったが、では一体だれが絵手紙を配ったのでしょうかという質問です。皆さんの町でもやっていたりしゃるかもしれません。見守り活動。こういうもの。郵便局は配ってくれない。そういう場合には、皆さんだったらだれに配ってもらうようにお願いしますか。こういう人に配ってもらったらいいいというアイデアのある人はいませんか。

だれも手を挙げないので、当てさせていただきます。仕方ない。では、数少ない女性の方にいきましょうか。A自治会の参加者Aさん。参加者Aさん、いらっしゃいますか。

参加者Aさんの町で、自治会で子どもたちが絵手紙を書いた。しかし、郵便局は配ってくれない。参加者Aさんだったら、だれに配ってもらいますか。

(参加者A)

民生委員の方でしょうか。

(黒川)

なるほど。民生委員の方。民生委員の方は仕事が多くて、これ以上仕事を増やさないと文句は言わないですか。大丈夫ですか。また私に仕事をやらせるのかと。

(参加者A)

そうですね。でも、自治会役員というのも大変だろうと思うし。

(黒 川)

役員も大変だし。

(参加者A)

子どもがそのまま持って行く。

(黒 川)

絵を描いた子どもたちが。保護者は文句を言いませんか。うちの子どもを使わないでくれなどと言うお母さん、お父さんはいないですか。

(参加者A)

そこは、協力をお願いすると思います。

(黒 川)

なるほど、説得する。ありがとうございます。

では、もう少し聞いてみましょうか。今度は男性に。B自治会の参加者Bさん。参加者Bさん、いらっしゃいますか。居留守。そうではないですよ。参加者Bさん、お休みですか。

では、次の方いきます。C町内会の参加者Cさん。参加者Cさん、いらっしゃいますか。参加者Cさんの町内だったら、だれに配ってもらいますか。

(参加者C)

私どもだとすると、そこの班長さんから配ってもらいます。

(黒 川)

班長さん。班長さんは、文句を言わないですか。

(参加者C)

かなりあると思います。

(黒 川)

言いますか。文句を言われたらどうしますか。会長、今ですらこんなに仕事、また増やすのかと。やめようよなどと言ったらどうしましょう。

(参加者C)

隣の人というのが一番いいかと思うのですが、やはり町内ごとですと、町内の班長に依頼するしかないのかなと思っています。

(黒 川)

なるほど。班長は、参加者Cさんの言うことを聞いてくれると。

(参加者C)

そうあってほしいと思います。

(黒 川)

なるほど。分かりました。

では、実際にこの町の場合どうしたのかということ、次のVTRを見てもらいますが、そのVTRを見ながら皆さんに少しこのことを考えてもらいたいです。地域の難問を解決する上で大切な三つのことがあります。三つの丸に当てはまる言葉もこのVTRを見ながら考えてください。一つ目、○○○はチャンス。二つ目、○○○○はやめよう。三つ目、人材は○○にいる。何か質問のある方はいらっしゃいますか。大丈夫ですね。VTRを見終わった後に、この丸に当てはまる言葉も聞きます。考えながらVTRを見てください。では、この町では一体だれが絵手紙を配ったのか。VTRをお願いします。

(VTR)

(黒川)

というわけで、この地域の場合は、地域のボランティアの方たちが絵手紙を代わりに配ってくれることになりました。先ほどの子どもが配るといのもいいですね。子どもが行くと、おじいちゃん、おばあちゃんも喜んでくれるかもしれません。今では信頼関係がもっと大きくなって、毎朝モーニングコールをしているそうです。お元気ですかということまで関係が深くなったとお聞きしています。

さて、皆さんの番です。地域で難問を解決するために大切な三つのこと。1番、○○○はチャンス。2番目、○○○○はやめよう。3番目、人材は○○にある。この今の見守りに限らず、空き巣でもごみ出しマナーでも、全部共通の言葉です。では、丸に当てはまる言葉、一つでも分かった人。これだけいらっしゃって、一人もいないのですか。そうか、当ててもらっているのですか。分かりました。では、仕方ないので指名していきましょう。

D自治会の参加者Dさん。参加者Dさん、いらっしゃいますか。参加者Dさん、どうでしょうか。一つでも。

(参加者D)

一番下。子ども。

(黒川)

人材は子どもにいる。どういう意味ですか。

(参加者D)

この番組というか、少し見たことがあるので、やはり子どもが直接配ると、お年寄りというか、喜んで非常によかったという事例を聞いたことがあるのです。

(黒川)

でも、「人材は子どもにいる」だと少し日本語として変ではないですか。確かに2文字は当てはまるのですけれども。なるほど。これは、この見守りに限らず、ひったくりでも、空き巣でも、ごみ出しのマナーのものでも、全部共通ですね。そのときに、子どもが人材になるという意見でしょうか。

(参加者D)

今の困ったことに関して、絵手紙を配ることに関して、お年寄り、子どもが一番喜ぶという事例を見たことがあるのです。

(黒川)

なるほど。少し質問と答えが違っていましたね。オーケーです。ありがとうございます。

ほかはどうでしょうか。では、当てていくしかないですね。では、次、女性にしてみました。E自治会の参加者Eさん。参加者Eさん、いらっしゃいますか。どうでしょう、参加者Eさん。三つ。どれでもいいです。

(参加者E)

3番。

(黒川)

3番。人材は。

(参加者E)

近く、近所。

(黒川)

近くに。いますか。人材は、近くに。参加者Eさん。

(参加者E)

はい。

(黒川)

いると思いますか。

(参加者E)

マンションの自治会で。

(黒川)

マンションの自治会の中に人材がいると。

(参加者E)

はい。思います。

(黒川)

よかったです。



では、1番目、2番目、だれか言ってください。

いないですね。では、F自治会の参加者Fさん。参加者Fさん、いらっしゃいますか。参加者Fさん。いないですか。お留守。今、「はい」と聞こえたけれども、お留守に「はい」ということですね。

では、G自治会の参加者Gさん。参加者Gさん。やはり女性の人はいいいですね。返事がいい。どうでしょうか。罰ゲームはないので、あてずっぽうで言ってみてください。

(参加者G)

ピンチはチャンス。

(黒川)

ピンチはチャンス。これは、なぜそう思われましたか。

(参加者G)

《発言》

(黒川)

なるほど。困ったときのほうが、むしろケアしようと思って知恵が集まるということですね。

2番目が空いています。どうでしょうか。だれもいない。割とおとなしい感じなのですね、中央区は。皆さん、ドキドキしていますね。H町内会の参加者Hさん。参加者Hさん、いらっしゃいますか。笑いは起きているけれども、参加者Hさんはいない。本当にいないのでしょうか。

では、I自治会の参加者Iさん。参加者Iさん。本当にいないのですか。名簿には丸と書いてあるのですが。では、結局女性になってしまうのですね。J自治会の参加者Jさん。ありがとうございます。参加者Jさんの声が聞こえました。参加者Jさん、どうでしょうか。二つ目が空いていますが。

(参加者J)

できないはやめよう。

(黒川)

できないはやめよう。なぜ、そう思われましたか。

(参加者J)

何とか工夫すれば、可能性があるのではないかなと。

(黒川)

なるほど。できないと思ってしまったら、そこでおしまいですがものね。ありがとうございます。

ほかはどうでしょうか。中央区の見解は出尽くしましたか。いいですか。後悔はないですか。なさそうですね。

どうぞ。

(参加者K)

《発言》

(黒川)

ピンチはチャンス。押し売り、押しつけでしょうか。押し売りは、やはりやめたほうがいいですけども。押しつけ。要するに。

(参加者K)

3番は、人材は近くですよ。そばにいるとか、町にいるとか。イメージだけで言ってみません。そのように考えながら。

(黒川)

なるほど。とんでもないです。素晴らしい。ありがとうございます。

押し付けはやめようというのはどういう意味ですか。

(参加者K)

《発言》

(黒川)

なるほど。自分の気持ちからこうやろうというならいいけども。

(参加者K)

《発言》

(黒川)

分かりました。そうですね。あなたやってよ、みたいに無理やりやらされたとしても、なかなかそこに気持ちは生まれません可能性もありますよね。

実は、どれが正解ということはないのです。ちなみに、我々がこの難問解決に対する三つの大事なことと言っていたことを皆さんにお伝えします。

これは、我々ディレクターがお困りご近所が難問を解決するうえでこの三つを大切にしようと言っていた言葉なのですが、一つ目、「ピンチはチャンス」と言っていました。これはどういうことかといいますと、お困りご近所探しをするときに、ピンチの町を探します。日本一空き巣が多い町とか、近所で評判のごみ出しマナーが悪い町とか、いわゆるピンチの町に行くわけです。会長のところに行って、今度、NHKの「難問解決！ ご近所の底力」でやるのですけれども、一緒に町をよくしませんかと言うと、大抵言われるのが、えー、やめてよ、全国放送でうちの町がひどいと言うのはと。ほとんどそうなのです。でも、中にはそ

う言わない人がいるのです。なに、それに出たらよくなるの、だったらやるよと言う人もいるのです。我々はそういう人と一緒にお仕事するのですが、つまり、同じピンチの状態にあっても、考え方一つでそのピンチのとらえ方が変わるのだと思ったのです。大抵の人は、ピンチだからNHKが来た、やめてくれと思う中で、ピンチだからNHKが来た、だったら使ってみようという考え方をする人もいます。そうか、ピンチは気持ち一つなのだと思います。

先ほどお答えくださった方も、困っているからこそ知恵が集まるとおっしゃいました。まさにそうで、実は、何か地震があったとか大きな災害があったとき、皆、何とかしないといけないという思いが強くなったりします。鉄は熱いうちに打てではないですけども、そういう皆さんの思いが、これを何とかしなければいけないと思うタイミングがピンチのタイミング、そのときがチャンスだと我々は思って、困っている町と一緒に仕事をしました。「ピンチはチャンス」と言っていました。

二つ目、できない、押しつけ、ともにすごくいいと思います。そのとおりだと思います。でも、我々が言ったのは、実は「全員賛成はやめよう」と言っていました。これはどういうことかという、お困りご近所さんがスタジオに来て難問解決、これをやろうと行って帰って行くのです。その後どうなりましたかと聞くと、いや、もうやめましたという町が次々に出てきました。どうしてなのですかと聞きましたら、こうおっしゃるのです。スタジオでは盛り上がったのですが、地域に帰ってそのほかの皆さんにこういう妙案をやろうと思うのですがどうですかと聞いたら、もしこんな問題が起きたらどうするのだと反対する人がいます。けっこう、確かにそうだなと思うような反対らしいのです。そういう人に限って声が大きかったりするのでですけども、それでうまく説得できずにやめてしまった。我々も非常に困りました。これでは番組が続かなくなると。そして、よくよく聞いてみましたら、どこに原因があるのかと思ったら、共通点があったのです。この妙案をやりたいと思うのですが、皆さんいかがですかと聞くのです。そうすると、反対する人がいるのです。でも、これは当たり前ではないですか。10人に聞いて10人全員が賛成することのほうが珍しくて、だれか一人反対する。むしろこちらのほうが普通なのです。でも、そのたびにだめだと思っていると、毎回進まないのです。どうしたものかと思いました。

そこで、このようにしてもらいました。全員に賛同を求めるのはやめて、このような聞き方にしてください。今度、こういう妙案をやりたいと思うのですが、一緒にやりたい人はいませんかと聞いてもらうようにしました。すると、反対の人は置いておいて、賛成する人ととりあえず前に進める。そして、反対する人は頭のいい人ですから、リスクを計算できたりする人ですから、何か困ったら少し知恵を求めるといようにしたらどうですかとなると、どんどん前に進むようになりました。

つまり、日本人は、皆、全員賛成しないと前に進まないと思いがちなのですが、それをやるといつまでたっても進まないのです。だから善意を持っている人の善意がうまく使えないということで、できれば賛同している人たち同士でまず進めてみようというように考えて、「全員賛成はやめよう」と。

三つ目、人材は町にいる。近くにいる。そばにいる。これ、どれもそうだなと思うのですが、我々もそう言っていました。「人材はそばにいる」。だけど、これは当たり前ではないですか。なぜこの当たり前のことが大事かという、実はこれがすごく盲点だということに気づいたのです。お困りご近所を探すときに、いつも 20 名くらい集めたいと思って、会長のところに行って、地域で 20 名くらい一緒に妙案を使って地域をよくしてくれる人を集めてくれませんかという、大抵、いや、20 名もいないよ、黒川さん。無理、絶対にやってくれないからと言われるのです。でも、我々が探すと、きちんといいメンバー 20 名が集まるのです。どういうことだろうか。地域のことを一番よく知っているはずの会長が 20 名探せないのに、全然関係ない私たちがきちんといいメンバーを 20 名集められる。簡単なことでした。会長は、いつも同じ人とお祭りをやって、同じ人と見守りをやって、同じ人と防災をやって、同じ人と防犯活動をやっているのです。ほかの方を誘ってみられたらどうですかと言うと、いや、どうせやってくれないからということなのです。でも、私たちは、この 20 名を探すために、100 名と会います。100 名と会うために、200 名に電話するのです。そうすると、裏で空き巣があったから私も何か不安で、できることはないかと思っていたのよというお母さんがいて、では一緒にやりましょうと行って、その人がリーダーになっていったということが何度もありました。

つまり、人材はいるのです。いるけれども、会えていないだけのことがすごく多いのではないかと思うのです。ぜひ皆さんにお勧めしたいのは、何か活動が地域で煮詰まったら、いつも会っていない人と会ってみる。そこに意外な突破口があるのではないかと思います。「人材はそばにいる」。そういう意味でした。

お答えくださった皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、時間もあれなので、最後の問題にいけます。今度は、ある町の具体的な難問を皆さんに解決してもらおうと思います。中央区の知恵を結集して難問を解決してもらいたいのですが、地図を書きます。東京の小金井市という、郊外のベッドタウンです。そのある町のお困りごとです。

お困りご近所は、ここです。東京都東町 5 丁目というところですが、この町は大きな幹線道路に挟まれています。この幹線道路を車が上から下、下から上に行き来するときに、なるべく大き目の道を使ってもらいたいのですが、この大き目の道は信号が七つあります。車は

通らない。こちらは踏切があるのです。ここも通らない。朝、急いているものですから。では、どこを通るかという、東町5丁目の真ん中のこの道を通る。実は、この道は4メートルの生活道路です。いわゆる普通の住宅街の狭い道路です。ここに朝夕、車が1,000台入って来るようになりました。いわゆる抜け道問題です。放っておくと大変なことになってしまう。ここは、悪いことに子どもの通学路なのです。怪我をしてしまうかもしれません。さあ、地域の大人として、子どもを守るために皆さんは何が出来ますかというのが質問です。中央区の皆さんだったら、どのように子どもを守られますか。アイデアはないでしょうか。

皆さん、もしかして子どもに冷たいですか。そのようなことはないですよ。だれか、智慧はありませんか。子どもを守るために、このようにしたらいいというアイデアのある人はいませんか。

(参加者L)

《発言》

(黒川)

時間帯を決めて進入禁止にするということですか。なるほど。実は、もうなっているのです。これは、スクールゾーンに指定するのです。スクールゾーンに指定すると、朝夕、子どもの通学時間は進入禁止になるのです。ウマとかを置くのです。それを無視して、外して1,000台入ってくるのです。酷いですよね。困りました。

ほかはどうでしょうか。ここは交互通行ですけれども、どうでしょうか。

(参加者M)

《発言》

(黒川)

警察官に立ってもらおう。なるほど。こういう道は小金井市だけで七つくらいあるそうです。朝の事故のときに行かなければいけない人間もいて、立ってもらおうのは、たまになら可能かもしれませんが、なかなか頻繁には難しいかもしれません。

(参加者M)

《発言》

(黒川)

指導員、どこに立ってもらいますか。両方。出入口。何名くらい。

(参加者M)

《発言》

(黒川)

二人ずつ立つ。なるほど。一つ質問していいですか。進入禁止を無視してくるような悪い

車の運転手なのです。善良な皆さんがここに立っていたときに、お前、何の権限があって立っているのだとかと言われてたらどうしますか。

(参加者M)

《発言》

(黒川)

交通指導員の腕章を持っているから、これが目に入らぬかと、水戸黄門のようにやるわけですね。去ってくれるといいですけども。

ほかはどうでしょうか。もう、新潟市中央区の知恵は出尽くしましたか。子どもを守る知恵は、おしまいですか。ないようですね。

では、小金井市の皆さんはどのように自分たちの町を守ったのか。最後のVTRをご覧ください。お願いします。

(VTR)

(黒川)

随分頑張って、難問解決に向けて動いていらっしゃいました。少し裏話をしますと、この行動力抜群の小金井の皆さんなのですが、これまではどうしていたのですかと聞きました。すると、春と秋の交通安全運動のときには、テントを立ててお茶を飲んで、車が多いねと帰っていたそうです。こんなにいろいろやれる人たちなのに、なぜなのですかと聞くと、毎日のように車があると、問題とも思わなくなるそうです、慣れてしまっただけで、問題は意識しないと見えないのです、黒川さん、とおっしゃった。なるほど、問題を意識してみないと見えない。確かに当たり前になりますよね。例えば、自分たちの地域で空き巣が何軒もあるとまた空き巣かとなるけれども、1軒目からこれは何かあるかもしれないと思ってこちらが意識して問題を見ようとすれば、何か対策を打とうとする。問題は、こちら側が意識して見ないと解決に向かわないということなのです。意識して頑張ったら、いろいろなことがうまくいった。

二つ大きなポイントがあったと思います。成功に近づけた。解決に近づけた。一つは、大学の先生。ぼんとお金を出しますよと言ってくれたあの先生、久保田先生です。あの先生がやっているのは、社会実験というものです。先生は、ハンブを置いてデータを取って、どのくらい有効かを調べて、国にこれが有効ですよ、政策として使ってくださいと言うのがお仕事なのですが、これがなかなかできないそうです。メーカーもハンブを貸してくれる。行政も許可をくれますが、住民から置いていいよという許可がなかなかとれない。ところが小金井

の皆さんは、一番難しい問題を解決してくれてきたのです。先生がずっとやりたくてもやれなかった。だから、あの場所で一番喜んでいたのは、実は先生なのです。

実は、全国の大学の先生方でいろいろなことを研究しながら、それが実際にできないという人たちが山ほどいます、皆さんと協力したいのに。だから、もし何か皆さんの地域でこんな問題があるといったときに、どこかの先生が何かをやっていないかという、この社会実験を使う手があると思うのです。では、だれがどんな研究をしているか、どのように調べればいいのか。簡単です。今、インターネットがありますから、「抜け道 ハンプ 専門家」と入れてみてください。埼玉大学の久保田先生の名前がすぐ出てきます。難しいことではないです。そして、皆さんが頑張っていてみたら、もしかしたらそういうアイデアを使って、新しいアイデアで問題解決できるかもしれない。

もう一つは、これが一番大事なのですが、なぜ難問解決に近づけたのか。これは、自分でやれることを自分でやったということなのです。当たり前のことですが、実はこれこそが、私たち皆がやらなくなったことなのです、自分の反省も言うなら。抜け道問題が起きる。まずやるのは、役場か警察に文句を言いに行くのです。お前たち何とかしろよ、問題が起きているのだぞと。そして、自分は何もしない。このことを日本全国でやっているのです。その結果、もう警察も行政も手一杯。もうできない。なのに、住民たちはだれかがやってくれると思って、相変わらずだれかにお願いしている。この人たちもそうだったのです。しかし、今回、やめてみたのです、自分でやってみたのです。そうしたら、かなりのことができたのです。行政も許可をくれる。先生も置いていってくれる。そして、この抜け道の問題が解決に近づいていったのです。

つまり、この自分で自分たちのことを何とかしようとやってみる。私がこの番組を7年間ずっとやっていて、今思うのは、それが一番の問題解決の妙案だと思っています。面倒くさいです、自分の町のことを自分でやるのは。だれかがやってくれたほうがいいに決まっています、楽ですから。だけど、これをやっているうちは、残念ながら問題解決しないのです。まず、自分がやれることを自分でやってみる。そのうえで行政をうまく、警察と協力してやっていく。このように発想を変えられるかどうか、皆さんの地域をよくできるかどうかの大きなかぎだと思います。面倒くさいです。しかし、少しやってみたら意外にけっこう進むのではないかと思います。

特にこの新潟は、コミュニティで、まず自分たちが何をしたいか解決策を考えたいうえで、それを行政と協力しながら解決に向けて進めていこうという先進的な取り組みをしている地域です。見てください。中央区でこれほどたくさんの人がこの話を聞きに来ているわけです。仲間はたくさんいます。地域をよくしたいと思っている人たち、ここにいる皆さんは皆そう

です。その人たちが力を合わせてやれば、できないはずはないと思うのです。だから、ぜひ、一番面倒ですが、自分たちのことを自分たちの町で解決してみる。この第一歩を皆さんで踏み出してもらおうと、大きく町は変わっていくと私は信じています。その仕組みづくりを一生懸命やっというらっしゃる、進んでいる地域の皆さんですから、できないはずはないと思います。私ができることは応援しますので、陰ながら応援しています。皆さん、ぜひ頑張ってください。

今日は、どうもありがとうございました。

(司 会)

黒川様、大変ありがとうございました。防災、見守り、安心・安全と、本当に身近な話題をテーマに、会場の方々にもご協力をいただきながら、大変参考になる話をお聞きすることができたと思っております。自分でやれることは自分でやる。私も少し心に響きましたけれども、今日ご参加された皆様方におかれても、今日の講演で得たことを少しでも地域のために役立てていただいて、今後の活動にご活躍いただければ幸いと思っております。黒川様に対して、もう一度盛大な拍手をお願いしたいと思っております。

以上をもちまして、平成 28 年度中央区地域活動ふれあいの集いを終了させていただきます。本日は大変お忙しい中、多くの皆様からご出席いただきましてありがとうございました。お帰りの際は、忘れ物のないようお手回りの品をご確認のうえ、また、足元にお気をつけてお帰りください。

なお、本日、永年勤続表彰を受けられた皆様におかれては、受付で感謝状と記念品をお渡しいたしますので、お受け取りのうえお帰りくださるようお願いいたします。

本日はご参加いただきまして、大変ありがとうございました。